

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191200023		
法人名	株式会社 ユニマツトそよ風		
事業所名	さがケアセンターそよ風		
所在地	佐賀県三養基郡上峰町大字坊所1523-53		
自己評価作成日	平成23年8月13日	評価結果市町村受理日	平成23年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成23年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の生活のリズムに配慮した支援を行っています。起きたい時に起きて頂き、食事もその方の都合に合わせて提供しております。入浴時間も利用者様の好きな時間に出来る様にしています。利用者様に寄り添う支援を大切に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に商業施設がいくつかあり、交通が便利なところに立地している。デイサービスとショートステイが併設された建物の3階にあり、レクリエーションなどを通じた交流も行われている。入居者一人ひとりの、生活ペースの尊重を心掛けていて、落ち着いた環境で過ごすことができるよう支援がなされている。食事は全館分がまとめて作られており、ホーム内での調理の機会は少ないが、職員と一緒におやつ作りをするなどして、入居者の楽しみや力を引き出す取り組みをされている。広い駐車場を利用しての秋祭りを計画し、商業施設から来訪者用駐車スペースを提供してもらったり、障害者団体のバザー、学生ボランティアの参加があるなど、地域や家族との連携にも力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	つばき	さるびあ			つばき	さるびあ	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(つばき)	自己評価(さるびあ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、法人の理念のもと、その達成の為、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげています。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、法人の理念のもと、その達成の為、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげています。	グループホーム独自のわかり易い理念をつくり、掲示や共有する努力をされているが、全体に浸透しきれていないところも見受けられる。	理念の大切さを、全員が理解し、特に新人スタッフに浸透できるよう、更なる取り組みを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人で自治会に加入しており、清掃活動や110番の家等の地域活動にも参加している	法人で自治会に加入しており、清掃活動や110番の家等の地域活動にも参加している	地域の防災訓練に職員が参加している。施設の避難訓練や行事には、地域の協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は公民館等で出前の介護教室も行っていたが、社協様が精力的に認知症の人の理解や支援の方法を定期的に研修して頂けているのでしていない。	以前は公民館等で出前の介護教室も行っていたが、社協様が精力的に認知症の人の理解や支援の方法を定期的に研修して頂けているのでしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には行政の方等多方面からの参加があり、話し合いで得られた意見や助言をサービス向上に活かしている。	会議には行政の方等多方面からの参加があり、話し合いで得られた意見や助言をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度の会議には、家族、地域や行政からの参加者があり、行事についての話し合い、各種報告がなされ、意見や助言をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者とは気軽に相談出来る関係にあり、おりに触れ情報交換や課題解決の為に相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	町の担当者とは気軽に相談出来る関係にあり、おりに触れ情報交換や課題解決の為に相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	相談の必要なことがあれば、いつでも連携できる関係がつくられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3階という立地条件もあり、階段やエレベーターが危険な為入り口は施錠している。身体拘束に関しては毎月廃止に向けた会議を開催している。	3階という立地条件もあり、階段やエレベーターが危険な為入り口は施錠している。身体拘束に関しては毎月廃止に向けた会議を開催している。	3階への出入り口が目の届きにくいところにあり、玄関の施錠やベッド柵使用の同意書を取り、経過も記録されているが、施錠の廃止に向けては現在検討中にある。	階段やエレベーターの位置の事情もあるが、継続して玄関を施錠しないケアの検討を希望する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を毎月開催し、常に事業所内での虐待が見過ごされる事が無いように防止に努めている。研修の機会があれば参加するようにしている。	虐待防止委員会を毎月開催し、常に事業所内での虐待が見過ごされる事が無いように防止に努めている。研修の機会があれば参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(つばき)	自己評価(さるびあ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、活用出来るように支援して行きたいと思い学習中である。	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、活用出来るように支援して行きたいと思い学習中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に利用者や家族等に十分に説明を行い疑問点を尋ね再度、理解・納得を図っている。また、その都度分からない点等は聞いて頂く様に説明している。	契約の際に利用者や家族等に十分に説明を行い疑問点を尋ね再度、理解・納得を図っている。また、その都度分からない点等は聞いて頂く様に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議の時にご意見をおうかがいし、反映している。また、面会時等日頃ご家族や、利用者よりご意見を頂き前向きに受け止め対応している。	家族会や運営推進会議の時にご意見をおうかがいし、反映している。また、面会時等日頃ご家族や、利用者よりご意見を頂き前向きに受け止め対応している。	面会時等に家族の意見、要望を聞きながら、丁寧に対応の相談をされ、運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議やグループホーム会議を開催し、代表者や管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映している	毎月1回全体会議やグループホーム会議を開催し、代表者や管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映している	事業所全体やグループホームの会議において、職員の意見や提案を聞き、個別にも相談対応をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作りを心掛け、シフトも職員の希望を受け作っている。給与に関しては頑張った職員が報われる様にきちんと査定している。	働きやすい環境作りを心掛け、シフトも職員の希望を受け作っている。給与に関しては頑張った職員が報われる様にきちんと査定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の施設間でも各委員会を設け毎月勉強会を行っている。また、研修委員会を設け毎月研修を紹介し、会議等で報告し、職員間での共有を図っている。	併設の施設間でも各委員会を設け毎月勉強会を行っている。また、研修委員会を設け毎月研修を紹介し、会議等で報告し、職員間での共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や会議の折には他の事業所と情報交換を行っている。近隣の事業所は利用者也交え相互訪問を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。	研修や会議の折には他の事業所と情報交換を行っている。近隣の事業所は利用者也交え相互訪問を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(つばき)	自己評価(さるびあ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当を決め主になり信頼関係を築いている。また、アセスメントを取りながらゆっくりとお話を聞く事で本人の安心を確保する関係作りに努めている。	担当を決め主になり信頼関係を築いている。また、アセスメントを取りながらゆっくりとお話を聞く事で本人の安心を確保する関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談の段階から困っている事不安な事や要望をお聞きし、一緒に解決に向けて話し合いを行い関係づくりに努めている	ご相談の段階から困っている事不安な事や要望をお聞きし、一緒に解決に向けて話し合いを行い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1ヶ月プランをたて、目標を決め本人とご家族等が必要としている支援を見極め対応に努めている。	1ヶ月プランをたて、目標を決め本人とご家族等が必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手伝い等の協力に対し、感謝を持ち言葉にして伝え、利用者の心の変化に関心を向け、喜怒哀楽を共有し安心した暮らしになる様に支援している。	手伝い等の協力に対し、感謝を持ち言葉にして伝え、利用者の心の変化に関心を向け、喜怒哀楽を共有し安心した暮らしになる様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会等の時に声かけして、ご家族の思いや近況等を聞き本人とご家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や家族会等の時に声かけして、ご家族の思いや近況等を聞き本人とご家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併施設利用者様がご利用の際に面会に来て頂ける様に声かけしたり、ご家族に連絡し馴染みの方々に声かけしてもらい面会に来て頂く様にお願いしている。	併施設利用者様がご利用の際に面会に来て頂ける様に声かけしたり、ご家族に連絡し馴染みの方々に声かけしてもらい面会に来て頂く様にお願いしている。	通院時等を利用して、馴染みの場所を訪ねたり、家族に面会や外出の依頼をしたりして支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席割りを一人一人配慮して、その都度決めており利用者に対してはそれぞれに役割を持ってもらい利用者同士が係わり合い支え合える様に支援に努めている。	席割りを一人一人配慮して、その都度決めており利用者に対してはそれぞれに役割を持ってもらい利用者同士が係わり合い支え合える様に支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(つばき)	自己評価(さるびあ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や他施設への入所の為契約終了しても、問い合わせ等に対応している。	長期入院や他施設への入所の為契約終了しても、問い合わせ等に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別にゆっくりと向きあえる時間に希望や思いを把握している。把握が困難な場合は、ご家族に尋ね、これまでの資料を参考に本人本位に検討している。	個別にゆっくりと向きあえる時間に希望や思いを把握している。把握が困難な場合は、ご家族に尋ね、これまでの資料を参考に本人本位に検討している。	行きたいところ等、入居者の方の希望や思いの把握に努められ、実現に向けて努力をされている。希望を言われたい方に対して、家族等からできる限りの聴き取りをされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に一通りはお聞きするが、折にふれ本人より聞き取り、面会時にはご家族に聞き取り、これまでの暮らしの把握に努めている。	入所時に一通りはお聞きするが、折にふれ本人より聞き取り、面会時にはご家族に聞き取り、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の残存機能に応じ、現状把握の為チェックリストを用いたり、毎月の状況報告書にた把握に努めている。	利用者の残存機能に応じ、現状把握の為チェックリストを用いたり、毎月の状況報告書にた把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画期間に応じ定期的見直しを行っている。面会時にその都度、意見やアイデアを聞き介護計画に反映できるようにしている。	介護計画期間に応じ定期的見直しを行っている。面会時にその都度、意見やアイデアを聞き介護計画に反映できるようにしている。	モニタリングシートを活用して見直しをされ、家族とも意見交換しながら、介護計画の検討をされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方が難しく、徹底できていないが、日々記録のポイントを捉える様に指導している。職員間で情報共有の為申し送りノートを活用している。	記録の書き方が難しく、徹底できていないが、日々記録のポイントを捉える様に指導している。職員間で情報共有の為申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で生まれるニーズに対し対応出来る分に対しては既存のサービスに捉われない柔軟な支援サービスを行う様に取り組んでいる。	その時々で生まれるニーズに対し対応出来る分に対しては既存のサービスに捉われない柔軟な支援サービスを行う様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(つばき)	自己評価(さるびあ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園やボランティアの方々に来苑して頂き、交流の時間を設ける様に支援している。	地域の幼稚園やボランティアの方々に来苑して頂き、交流の時間を設ける様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は以前からのかかりつけ医を受診されている。ホームはそれぞれのかかりつけ医と良好な関係にあり、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者は以前からのかかりつけ医を受診されている。ホームはそれぞれのかかりつけ医と良好な関係にあり、適切な医療を受けられるように支援している。	情報提供シートを事前に主治医に届けるようにして、受診の支援をされている。かかりつけ医に変更がある場合にも、丁寧に対応をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護職員に状況報告を行い、指示や助言を受けられるように支援している。	常に看護職員に状況報告を行い、指示や助言を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が多数あり、入院時の付き添いや面会等で医療機関との情報交換や相談に努め、安心して治療出来る様に支援している。	協力医療機関が多数あり、入院時の付き添いや面会等で医療機関との情報交換や相談に努め、安心して治療出来る様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアは行っていない、重度化した場合のあり方については、早い段階から事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有している。	終末ケアは行っていない、重度化した場合のあり方については、早い段階から事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有している。	契約時に十分な説明をされ、重度化した時には、できることできないことの話し合いを、家族と丁寧にながら対応をされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えて、研修を行ったり、手当や対応についてファイルにし、書棚に置いている。	事故発生時に備えて、研修を行ったり、手当や対応についてファイルにし、書棚に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。昨年、地域の方の参加もして頂いている。消火設備点検も定期的に行っている。	年2回の防災訓練を行っている。昨年、地域の方の参加もして頂いている。消火設備点検も定期的に行っている。	近所の方にも参加してもらい、昼夜想定での避難訓練を行っている。地域全体の防災訓練でも、避難場所の確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価(つばき)	自己評価(さるびあ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者を敬い笑顔で優しく接している。また、記録の取扱や電話等の対応は、個人情報の保護にも配慮している。	職員は利用者を敬い笑顔で優しく接している。また、記録の取扱や電話等の対応は、個人情報の保護にも配慮している。	職員は、入居者の方の人格の尊重を心掛け、誇りを損なわないように、声掛けや言葉遣いに配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当者会議自に本人の思いや希望が最優先される様に働きかけている。また、日常生活の中でも本人が自己決定出来る様に働きかけている。	担当者会議自に本人の思いや希望が最優先される様に働きかけている。また、日常生活の中でも本人が自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大体の流れはあるが、本人のペースとニーズを尊重した支援を行っている。	一日の大体の流れはあるが、本人のペースとニーズを尊重した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月第2、第4月曜日には出張理美容があり、利用者に確認し希望に沿って利用されている。また、行事の時や希望の時に化粧等の支援もしている。	毎月第2、第5月曜日には出張理美容があり、利用者に確認し希望に沿って利用されている。また、行事の時や希望の時に化粧等の支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月美食まつりと題して利用者が好む手の込んだ見た目でも楽しめる様なご善を提供している。食レクとしておやつ作りにも取り組んでいる。	毎月美食まつりと題して利用者が好む手の込んだ見た目でも楽しめる様なご善を提供している。食レクとしておやつ作りにも取り組んでいる。	毎月、特別献立の日を設けている他、たこ焼きやお好み焼き等、おやつ作りをレクリエーションに取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスは栄養士によって管理され、食事や水分摂取量も日々記録し、健康管理に活かしている。	栄養のバランスは栄養士によって管理され、食事や水分摂取量も日々記録し、健康管理に活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者の残存機能に応じた声かけや歯磨き介助、義歯洗浄等口腔ケアを毎食後行っている。訪問歯科診療との連携も図っている。	各利用者の残存機能に応じた声かけや歯磨き介助、義歯洗浄等口腔ケアを毎食後行っている。訪問歯科診療との連携も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価(つばき)	自己評価(さるびあ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は定期的にトイレに介助し、トイレでの排泄を目指している。また、排泄困難時には腹部マッサージや腹圧をかけて排泄の誘導を行っている。	日中は定期的にトイレに介助し、トイレでの排泄を目指している。また、排泄困難時には腹部マッサージや腹圧をかけて排泄の誘導を行っている。	日中はトイレで排泄ができるよう支援をされている。困難から自立に近い回復をされた方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や食事は消化の良い物や調理に工夫して提供している。また、医療機関と調整し、薬での対応も行っており、殆どの方に排便みられる	毎日の体操や食事は消化の良い物や調理に工夫して提供している。また、医療機関と調整し、薬での対応も行っており、殆どの方に排便みられる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ユニットごとに週3回入浴できる。曜日は決めているが、入浴出来なかったら次の日に入浴できる。入浴時間は本人に聞き入りたい時に入っている。	ユニットごとに週3回入浴できる。曜日は決めているが、入浴出来なかったら次の日に入浴できる。入浴時間は本人に聞き入りたい時に入っている。	浴室には二つの浴槽があり、使い勝手やお湯の温度で選べるようになっている。時間についても、希望に沿った支援をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立度の高い方は本人の意思に任せて見守っている。本人で判断出来られない方は、職員がベッド臥床介助し休息の時間を意識して支援している。	自立度の高い方は本人の意思に任せて見守っている。本人で判断出来られない方は、職員がベッド臥床介助し休息の時間を意識して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に看護師と薬の情報を共有し、症状の変化については、看護師の方より医療機関に情報提供しながら服薬の支援を行っている。	常に看護師と薬の情報を共有し、症状の変化については、看護師の方より医療機関に情報提供しながら服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯物干しやたたみ、手芸、読書等それぞれの利用者の生活歴や趣味を活かして支援している。	毎月の行事の中に活躍の場を提供出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外散歩の体力が無く、敷地内の散歩を支援している。散歩が難しい為、ドライブや買物に出掛けている。	屋外散歩の体力が無く、敷地内の散歩を支援している。散歩が難しい為、ドライブや買物に出掛けている。	ドライブに出かけたり、近所へおやつを買いに行く等の支援をされている。希望した店での飲食も実現できるよう努力をされている。	

自己	外部	項目	自己評価(つばき)	自己評価(さるびあ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員管理しているが、買物に出かけた時レジに本人が支払い出来る様に支援している。	お金は職員管理しているが、買物に出かけた時レジに本人が支払い出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書く事が嫌がられるので手紙は出されないが、電話は希望に応じ対応している。また、携帯電話を個人で使用されている方もおられる。	親子で手紙のやり取りをされている方がおられ、月に数回出されている。電話も希望に応じ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下はシンプルに、フロアーは利用者と職員で作った季節感のある貼り絵や飾り等が飾られている。	廊下はシンプルに、フロアーは利用者と職員で作った季節感のある貼り絵や飾り等が飾られている。	季節感のある貼り絵や塗り絵が飾られ、音や光の刺激についても、調整する努力をされている。定期的に温度・湿度を測定し、換気にも気を配られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルごとに席が決まっており、自分の場所として殆どの方がその席で過される事が多い。	場面に応じて場所を変えると表情がよくなる方には場面場面で場所の移動を支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の好みに任せているが、興味を示されず、寂しい居室に関しては様子ををみながら、居心地良く過せるように支援している。	本人、家族の好みに任せているが、興味を示されず、寂しい居室に関しては様子ををみながら、居心地良く過せるように支援している。	できるだけ使い慣れたものを持って来ていただき、飾り等、居室が居心地良くなるよう、好みを聞きながらの支援をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで障害物なく動ける様になっている。トイレと居室入り口はドアの色を分けており、使用する際になるべく迷わない様に配慮されている。	全館バリアフリーで障害物なく動ける様になっている。トイレと居室入り口はドアの色を分けており、使用する際になるべく迷わない様に配慮されている。		